

2016（平成28）年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 社会科教育専修

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、150分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

【問題】

資料文は、『子どもを学びの主体として育てる』（ぎょうせい、2014年）の内、守屋淳（北海道大学教授）が著した第1章「子どもが主体となるとはどういうことか」の第2節「民主主義の社会と主体を育てる教育」（23～29ページ）の全文である。下線は出題者が付したものである。

資料文をよく読んで、以下の各問に答えなさい。

問1 著者の主張を、400字程度でまとめなさい。

問2 資料文では、1－①下線部分で「私たちは民主主義の社会に生きている」と述べつつ、1－②下線部分では「現在の日本社会は、こうした理念からほど遠い状態にある」とも述べている。その主張への賛否も含めて、あなたは「民主主義の社会」に生きているのか否か、あなたの考えを400字程度で述べなさい。

問3 資料文3において、学校は子どもたちにとって「公的な領域」と呼ぶことが可能であると述べている。ということは、子どもたちにとって「私的な領域」もあるということである。では、子どもたちにとって「私的な領域」とはどのようなもので、その「私的な領域」とのつながりを抱えている子どもたちが「公的な領域」の構成員になることができるのか。あなたの経験を踏まえて、800字程度で論じなさい。

資料文

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

2016（平成28）年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 社会科教育専修

出題の意図

この小論文の出題の意図は、本学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーである「沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人」を踏まえ、本学部の入学者選抜の基本方針である「教科に即した修得度とは異なった読解力や構想力」について評価するものである。

問1においては、論旨を的確に読み取り表現する能力をみる。

問2では、資料文を批判的に読み取る能力を問う。

問3では抽象的な概念を、自分の経験と照らし合わせて具体的に論じる能力を問う。